公益社団法人日本新生児成育医学会　2022年度定時社員総会　議事録

日　時：2022年11月24日（木）16：30～18：00
会　場：パシフィコ横浜　会議センター1階「第1会場 メインホール」（神奈川県横浜市）
出席者：137名
委任状・書面評決提出者：87名

議　事

1. 総会成立

本法人の総会における議決権者である代議員249名に対し，出席者が議決委任者および書面評決者を含めて224名となり，定款第26条および同第27条2項に基づき，本総会の成立に必要な過半数の定足数に達したため，早川昌弘理事長より総会の成立が報告された。

2. 議事録署名人の選出

定款28条2項に基づき，代議員の荒堀仁美先生，宮園弥生先生が議事録署名人に選出された。

3. 理事長挨拶

早川理事長から，開会挨拶に際して2年間の各種委員会活動を振り返る報告があった。

4. 大会長挨拶

第66回日本新生児成育医学会・学術集会の大会長である長谷川大会長より学術集会が現地開催されるのは3年ぶりであり，日本新生児看護学会学術集会と合わせて約2,000人の登録があったこと，また今学会では機器展示のスタンプラリーを取り入れており，景品も用意しているため，是非参加して欲しいと報告があった。

5. 理事長報告

1）理事選挙の件

以下の方々に選挙管理委員会委員を務めていただき，理事選挙を行った。新理事会組織については第4号，第5号議案で審議予定である。

選挙管理委員長　北島博之先生（名誉会員：大阪母子医療センター）
委員　岩見裕子先生（一般会員：大阪市立総合医療センター）
委員　山本哲史先生（一般会員：大阪大学医学部附属病院）

また，早川理事長立ち合いのもと，今期より理事長選挙を導入した。

2）韓国・台湾・日本　3か国の新生児学会交流の件

延期となっていた4th Taiwan-Korea-Japan Joint Congress on Neonatologyが2022年3月19日，台湾・台中にてWeb開催され，本会より以下の演題発表があった。

《Special Lecture》
演者：諫山哲哉先生（国立成育医療研究センター）
座長：谷口英俊先生（大阪大学大学院医学系研究科）

《English Oral Presentation》
伊藤誠人先生（秋田大学附属病院小児科）
山本和也先生（昭和大学病院小児科）
鈴木俊彦先生（名古屋大学医学部附属病院総合周産期母子医療センター新生児部門）
北瀬悠磨先生（Johns Hopkins University）

3）米国小児科関連学会（Pediatric Academic Society〈PAS〉Meeting）2022年度学術集会における発表者推薦の件

本学会から神澤孝洋先生（名古屋大学医学部附属病院）を推薦した。選考結果は12月中旬の予定である。

4） 文献許諾使用料の件

メテオ社 2021 年度の文献使用料は合計 17,880 円で，5 月 31 日に振り込まれた。

医学中央雑誌より，許諾抄録利用料金 27,720 円の入金があった。

5） 日本小児呼吸器学会，日本新生児成育医学会編

「小児 RS ウイルス呼吸器感染症診療ガイドライン 2021」印税の件

日本小児呼吸器学会と共同編集した「小児 RS ウイルス呼吸器感染症診療ガイドライン 2021」の著作権使用料として 461,924 円が 5 月 10 日に学会の口座に振り込まれた。

6）「被災地の避難所などで生活する赤ちゃんのための Q&A」ウクライナ語・ロシア語版発行の件

新生児医療連絡会の大木事務局長から「被災地の避難所などで生活する赤ちゃんのための Q&A」のウクライナ語版・ロシア語版を制作し，関連団体に届ける際に本会の名前を入れてよいか確認があったため，承認した。なお，翻訳にかかる費用は，連絡会のくまモン救児募金から支払われる。

7）「ヒドロキシクロロキン製剤の 6 歳未満への禁忌条項削除の要望書」提出の件

日本小児呼吸器学会と共同し，ヒドロキシクロロキン製剤の「6 歳未満への投与」禁忌条項削除の要望書を 11 月 28 日に厚生労働省に提出する予定である。

8） 供給停止となる医療材料に関する企業ヒアリング対応および要望書提出について

TTTS 症例母体の FLP 治療に必須の医療機器が供給停止予定となっていることが厚生労働省からの疑義照会で判明した。ルミナス社製「バーサパルスセレクト 80：100」という機器で，本邦では FLP 実施施設のほとんどでこの機器が使用されている。

厚労省から，本機器の使用について企業からのヒアリングを受けることを打診され，対応することとした。また製造販売を担当する企業に対して，今後の供給および保守継続についての要望書を提出する予定である。

9） 寄付・協賛金の件

株式会社アローズ，株式会社メトラン，ピジョン株式会社よりご寄付をいただいた。また，中外製薬株式会社より第 25 回教育セミナーの協賛金をいただいた。

6. 庶務報告

2022 年 10 月時点の会員数は 2,492 名（男性 1,602 名･女性 874 名･非医師 81 名）で，昨年は 2,523 名であり，昨年より減少傾向であることが報告された。2022 年度の新入会は 213 名で退会者は 263 名と入会者を上回っている。退会者，特に資格喪失退会の名簿の中で活発に活動されている先生がいたら，会費納入を失念されている可能性があるので声をかけて欲しいと報告があった。

7. 審議事項

第 1 号議案：2022 年 9 月期（2021 年 10 月 1 日～ 2022 年 9 月 30 日）事業報告及び決算書類承認の件

流動資産は 114,159,776 円，流動負債は 32,080,389 円となり，正味財産の合計は 82,079,387 円だった。経常収益は主に受取会費の年会費・代議員費，また事業収益としてセミナー開催収入・広告掲載収入・論文掲載収入等があり，合計 31,779,037 円となった。経常費用は事務局委託費・旅費交通費・印刷製本費等で 17,358,920 円，管理費として 659,936 円が計上され，合計 18,018,856 円となり，当期一般正味財産増減額は 13,760,181 円となった。2022 年度は学術集会の開催がなく，収益は少ないが，経費も少なく黒字となった。事業報告として学会誌の刊行，セミナーの開催，各委員会活動，学会賞の選出，理事会・総会の開催を行ったことが報告された。

与田監事より監査報告があり，賛成 1/2 以上で承認可決された。

第 2 号議案：2023 年 9 月期（2022 年 10 月 1 日～ 2023 年 9 月 30 日）事業計画及び収支予算の件

2023 年度の個別の事業として学会誌の刊行，学術集会の開催，セミナーの開催，Web セミナーの開催，各委員会活動，学会賞の選出，理事会・総会が開催される予定である。2023 年度は学術集会の予算が組み込まれており 2021 年度の予算やコンベンション会社からの収支予算書をもとに算出している。収益は主に年

会費，代議員費，学術集会の収益を含め経常収益は77,881,943円，経常費用は公益目的事業会計と法人会計で按分し，74,244,461円となった。学術集会の開催があるため，収入も多いが支出も多い予算となっていることが報告され，賛成1/2以上で承認可決された。

第3号議案：第69回学術集会　会長選任の件

高橋尚人理事が第69回会長に立候補し，賛成1/2以上で承認可決された。現時点では2025年11月13日（木）～15日（土）に横浜市の「パシフィコ横浜」で開催予定である。

第4号議案：理事の選任に関する件

下記20名を理事に選任する件について賛成1/2以上で承認可決された。

諫山　哲哉，落合　正行，影山　操，日下　隆，河野　由美，佐藤　義朗，東海林宏道，高橋　尚人，長　和俊，徳久　琢也，中西　秀彦，難波　文彦，長谷川久弥，飛彈麻里子，廣間　武彦，芳本　誠司，細野　茂春，水野　克己，森岡　一朗，和田　和子

新理事に選出された先生方で理事長選挙を実施し，新理事長に高橋尚人先生，新副理事長に森岡一朗先生が選出された。監事は任期が4年のため引き続き中村友彦先生，与田仁志先生に委任し，幹事は荒堀仁美先生，北東　功先生，山田恭聖先生に委任することが報告された。

第5号議案：新功労会員推薦に関する件

下記5名を功労会員に推薦する件について，賛成1/2以上で承認可決された。

青谷　裕文，清水　光政，長谷川　功，馬場　淳，吉田　宏

吉田　宏先生から挨拶があった。

8. 各種委員会報告

1. 男女共同参画推進委員会（河野委員長）

1）女性医師の活躍推進の手段として代議員数，理事数のクオータ制導入の方法を検討した。代議員の女性比率を，現状の17%（42名）から，次回の2年後の選挙では25%（62名）を目指し，次々回には最終目標である会員率の35%（87名）を目指す。それに応じて理事も，現状20%（4名）から2年後，4年後は25%（5名），6年後には35%（7名）とすることを提案し，理事会の承認を得た。今後，具体的な方針について検討していく。

2）「初めての学会座長の手引き」を本学会ホームページ内に掲載した。

3）第66回学術集会で委員会主催シンポジウム「女性医師の活躍推進」を開催する。

2. 学術委員会（長谷川委員長）

厳正な選考の結果，以下のごとく決定した。

1）2021年度日本新生児成育医学会学術奨励賞

玉置祥子先生（兵庫県立こども病院周産期医療センター新生児科）

論文名：Improving survival in patients with trisomy 18

掲載雑誌：American Journal of Medical Genetics. 2022；188（4）：1048-1055

2）2021年度日本新生児成育医学会学会論文賞

添野愛基先生（長岡赤十字病院新生児科）

論文名：インドメタシン予防投与を行った超低出生体重児における動脈管閉鎖を阻害する因子の検討

掲載雑誌：日本新生児成育医学会雑誌 2021；33（1）：92-96

なお，昨年は学術集会が開催されなかったため，2020年度の学術奨励賞・学会論文賞の受賞講演も今学術集会で執り行った。

3）米国小児科学会2023年度学術集会における発表者推薦：

選考の結果，神澤孝洋先生（名古屋大学医学部附属病院総合周産期母子医療センター）を本学会より推薦した。

3. 広報委員会（水野委員長）

1）若い先生方に新生児医療に関心をもって欲しいという思いからツイッターを立ち上げ，一般・医療関係者向けに情報を発信している。
2）ホームページを充実するために会員を対象としてアンケート調査を行った。アンケートの回答を活かし，魅力あるホームページにしていく。
3）ホームページに NICU で用いることの多い用語（一般向け，専門職向け）をわかりやすく解説するページを作成予定である。

4. 医療の質向上委員会（長委員長）

1）稀有疾患（病態）サーベイランス事業（報告数は 2022 年 4 月 8 日時点）
- MIRAGE 症候群および MIRAGE 症候群関連疾患（～ 2022 年 10 月）：8 例
- 新型コロナウイルス感染症の母体から出生した児（～ 2023 年 3 月）：66 例
- 軟骨低形成症（～ 2024 年 12 月）：1 例

本サーベイランス事業の成果として，神戸大学大学院医学研究科内科系講座小児科学分野・藤岡一路先生の論文が，J. Clin. Med に掲載された。

Fujioka K, et al. Neonatal Pseudohypoaldosteronism Type-1 in Japan. J. Clin. Med. 2022, 11, 5135. doi. 10.3390/jcm11175135

2）フォローアップ事業

厚生労働科学研究費　健やか次世代育成総合研究事業
「低出生体重児の成長・発達評価手法の確立のための研究」
2021 年 11 月 17 日（令和 3 年度）　～　2023 年 3 月 31 日（令和 4 年度）
研究代表者：河野由美（自治医科大学）

5. 医療の標準化委員会（諫山委員長）

1）全国の多職種（医師・看護師・他医療者・患者家族など）の有志 200 名以上からなる新生児医療の科学的根拠に基づく診療ガイドライン作成グループ（JEBNeo： Japan Evidence Based Neonatology）によりガイドライン作成を進めている。
2）JEBNeo は Open な会であり，随時希望者があれば，過去の勉強会の録画などで自己学習の上で，ガイドライン作成に参加してもらっている。
3）JEBNeo の全体会議を毎月開催している。
4）慢性肺疾患（CLD）の診療ガイドラインに関しては, 約 40 の Clinical Questions（CQ）を立てて, PICO シートを作成し，文献検索を進めているところである。
5）動脈管開存症（PDA）の診療ガイドラインに関しては，CQ が固まってきたところで，各 CQ の PICO シートの作成を進めている。
6）この他，薬剤師を中心とした薬剤班による薬剤ガイドラインの作成，患者家族も含めたガイドラインで使用するアウトカムの重要度評価の検討も進めている。

6. 医療安全委員会（大曽根委員長）

第 66 回学術集会にて医療安全委員会企画教育講演を以下の概要で企画実施する。
11 月 25 日（金）　14：40 ～ 15：40
①「NICU における COVID-19 の医療機器リスクマネージメント」
演者：松井　　晃（神奈川県立こども医療センター新生児科）
②「小さな命を安全に運ぶための，方法と根拠」
演者：寺澤　大祐（岐阜県総合医療センター）
座長：宮園　弥生（筑波大学医学医療系小児科）

7. 感染対策予防接種委員会（森岡委員長）

1)「早産児への抗菌薬使用方針ならびに各施設の多剤耐性菌感染対策のアンケート調査」,「NICUにおけるロタウイルスワクチンの定期化への対応に関するアンケート」,「新型コロナウイルス感染症の母体から出生した児のサーベイランス2次調査」は，集計と解析を行い，第66回学術集会の感染対策予防接種委員会企画シンポジウムで発表した。

2)「NICUにおけるロタウイルスワクチンの定期化への対応に関するアンケート」は，会員への還元を考慮し，日本新生児成育医学会雑誌へ投稿し，2023年2月発刊35巻1号への掲載が決定した。

3) 本学会から公表している「新型コロナウイルス感染症に対する出生後早期の新生児への対応について」は，今後の社会の状況を見ながら，改定を検討している。

8. 社会保険委員会（和田雅樹委員長・代　早川理事長）

1) 本学会（共同提案含む）からの提案により，令和4年度診療報酬改定において以下の項目が収載（改定）された。

- 成育連携支援加算の新設
- 新生児特定集中治療室管理料1の施設要件改定：開頭・開胸・開腹手術件数に腹腔鏡手術件数を含める
- 新生児特定集中治療室管理料の改定：慢性肺疾患を合併した児の算定期間延長

2) 令和6年度診療報酬改定における内保連方針として以下の項目を提案した。
「出産前の胎児（新生児診療の一環として行われる母親等に対する支援を含む）と出産後の家族支援を含めた新生児に対するケアの充実」

3) 令和6年度診療報酬改定提案要望項目のアンケート調査を実施し，重要項目を選定した。今後，精査の上，提案項目を決定していく。

9. 倫理委員会（福原委員長）

1) 第66回学術集会においてシンポジウム：「児の最善の利益」を話し合うために―家族との話し合いがすすまなくなった事例を通して考えよう―（家族を交えた多職種による公開WS形式：11月26日開催）を企画した。

2) 第66回学術集会において，倫理に関する教育講演：小児救急・集中治療における終末期医療の話し合い～多彩な価値観と選択肢：国内外で感じた違和感を含めて～　聖マリアンナ医科大学小児科学講座　清水直樹先生（11月25日開催）を企画した。

3) 倫理委員会では，「話し合いのガイドライン」を活用しながら，日常的に遭遇する倫理的課題について家族を含む多職種で話し合い，多様性のある意見を聞き，自らの意見を表出する機会を作ることを目標に学術集会における企画を行っている。

10. 診療委員会（芳本委員長）

超早産児/超低出生体重児を小児慢性特定疾病として本学会から申請するために検討中である。
今年度は厚生労働省からの追加申請受付がなく，次年度に引き継ぐ予定である。

11. 教育委員会（中西委員長）

1) 2022年8月20日（土）　第25回教育セミナーをzoomで開催。
当時のコロナ情勢と各参加者の所属施設における参加規制等を考慮し，またディベートやハンズオンセミナーの中止などプログラム案を大幅に縮小して，zoomで開催した。約300名が参加し，次年度の現地開催に向けた布石とした。ハイブリッド開催も検討中である。

2) 第66回新生児成育医学会学術集会での企画

- 2022年11月24日（木）シンポジウム4「(教育委員会企画）打ち破れ，中小NICUだからこそできる研究プロダクト！」を企画した。
- 2022年11月25日（金）第24回教育セミナー優秀ワークショップの発表を予定している。

3) webセミナーの開催

学術委員会と交互に web セミナーを定期的に開催していく予定である。

12. 学会将来構想委員会（高橋委員長）

1）本学会には専門医制度がなく，また日本周産期・新生児医学会の専門医制度ではフォローアップの認定は行われていない。現在，フォローアップに取り組んでいる先生方の認定が必要と考え，また教育や研修システムも必要のため「認定フォローアップ医制度」を構築することが決まり，ワーキンググループ会議を 1 月 12 日，6 月 10 日，8 月 19 日の 3 回開催し，以下のような内容を決定した。

①目的の確認

- フォローアップを行う医師に学会が立ち位置を示す。
- フォローアップの均等化を図りフォローアップの普及・指導を行う。

②暫定制度の確定

- フォローアップ能力のある会員を“暫定認定医”として認定する。認定要件は E-learning の受講と症例報告とし，初回は無試験で認定。3 ～ 5 年後の更新時に正式な認定医として継続してもらう。
- 暫定認定医は，制度設計や正式制度の試験作成，症例報告の審査などを担当し，“正式認定医”を指導する立場として協力する。
- 申請と審査は年 1 回，申請料 3,000 円，登録料 10,000 円を予定。

③正式認定医の要件の確定

- 小児科専門医であること。
- 現在会員であること（会員歴 1 年以上）であること。
- フォローアップ症例を 10 例報告すること。
- 認定フォローアップ医到達目標の確認をすること。
- E ラーニング（テストあり）を受講すること。
- 学術集会に参加すること。

④制度運用

- 2023 年 11 月から運用を開始する。
- 暫定制度開始から 3 年後に正式認定医申請受付開始。認定期間 5 年。業績や学会参加などを更新時の要件とする。
- E-leaning は暫定認定医の基本的講義 4 項目の他に，脳性麻痺の診かた，リハビリと療育，学童・思春期のフォローアップ，就学支援･教育支援，先天異常のフォローアップ，医療･福祉サービスの 10 講義。
- 通信理事会で認定医制度委員会を発足した（ワーキンググループからの格上げ）。

会場から将来的に「認定フォローアップ医制度」は専門医機構の専門医を目指すのかと質問があがり，高橋委員長より学会認定の認定医となるが，中身はしっかりとつくっていく予定であると回答があった。

2）第 1 回拡大委員会を 4 月 8 日に開催した。

若手医師 9 名を招いて今後の本学会のあるべき姿を議論し，以下の意見があがった。

- 新生児専門でなくても小児科医でこの学会の入会者を増やす取り組みが必要。
- 小児外科，小児神経，基礎医学の人たちを学会に入れるのはどうか。
- 退院した児が育っていく社会との関わりをもっと持つべき。
- 健常新生児，地域の新生児，late preterm などについてすべきことがある。
- 若手には発表の機会として学術集会が重要。
- 国内留学の斡旋，研究員の募集，最優秀演題賞，学会発表数のデータ管理，国際雑誌への投稿サポート，他職種の研究のサポート，研究助成金の検討。
- 英文誌には一定の役割が期待されるとして好意的な意見が多かった。

13. 薬事委員会（飛彈委員長）

1）日本医学会，日本小児科学会を介して厚労省から定期的に送られてくる「供給停止予定の医薬品，医療材料，医療機器の疑義照会」について，内容を検討し，意見や要望を適宜提出している。

2）本邦の保険診療において新生児・小児への適応が未承認，もしくは診療ガイドライン内での記載で新生児・小児への使用について強い制限がある薬剤について，関連学会と共同して，適応拡大やガイドライン記載修正を求める要望を適宜提出している。

14. 総務委員会（和田和子委員長）

1）学術集会の会計にかかる内規を変更した。

2）2023年度の新理事長選出に立候補制を導入した。

3）役員のクオータ制導入について検討した。

15. 国際渉外委員会（日下委員長）

The 4th Taiwan- Korea -Japan Joint Congress on Neonatology に参加した。

2022年3月19日に，台湾 Taichung Veterans General Hospital にて行われた。

Guest speech として早川昌弘理事長が挨拶を行い，その後に，Seminar（1）として，楠田　聡先生（東京医療保健大学小児科）が「Deep dive in young children RSV prophylaxis and real-world experiences sharing from clinical practice in Japan」の演題名で講演を行った。また SPECIAL LECTURE（Ⅲ）として，諫山哲哉理事（国立成育医療研究センター）が「The clinical management and outcomes of peri-viable infants born at 22-23 weeks gestation in Japan：A national institutional survey」の演題名で講演を行った。

English Oral Presentation では，北瀬悠磨先生（Johns Hopkins University），山本和也先生（昭和大学病院小児科），伊藤誠人先生（秋田大学附属病院小児科），鈴木俊彦先生（名古屋大学医学部附属病院）が口演発表し，谷口英俊先生（大阪大学大学院医学系研究科）が座長を務めた。

とても有意義な国際会議となり，今後も3か国で継続予定である。

16. 調査研究審査委員会（高橋委員長）

特になし

17. 災害対策委員会（茨委員長）

特になし

18. 学会誌編集委員会（河井委員長）

特になし

19. 利益相反委員会（廣間委員長）

特になし

20. 産科医療補償制度対応委員会（細野委員長）

特になし

9. 第67～69回会長挨拶

第67回学術集会（細野会長）

2023年11月2日（木）～4日（土），パシフィコ横浜で開催予定であり，テーマは「NICU を飛びだそう」であることが報告された。

第68回学術集会（中村会長・代　早川理事長）

2024年11月8日（金）～10日（日），ホテルブエナビスタ（長野県松本市）で開催予定であることが報告された。

第69回学術集会（高橋会長）

2025年11月13日（木）～15日（土）パシフィコ横浜で開催予定であり，テーマは「激動の社会の中の新生児医療」であることが報告された。新生児に限らない，一流の先生方の講演を聴いて勇気を得たいと考えている。将来の国際化も見据えて英語での発表も検討している。